

5 校内研究・研修

(1) 研究主題

教科等	研究主題
国語科	一人ひとりが周囲とつながりながら、 自分の意見・考えを深める国語科指導をめざして ～単元を貫く言語活動を生かした児童の学びを深める教師の手立ての追及～

(2) 主題設定の理由

本校では、一昨年度より国語科を窓口の研究を始めた。以前から研究を深めてきた「ユニバーサルデザイン」を大切に、「単元を貫く言語活動」の考え方を取り入れた「出口を意識した単元づくり」の実践を重ねてきた。「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を考えることができ、教師の力量を高めることができたと考えている。「単元を貫く言語活動」を取り入れることで、導入時に学習のゴール（目指す姿）を示すことを意識するようになり、教師も児童も見通しを持って学習を進めることができるようになってきた。また、目指す姿が明確になっていることで、意欲的に学習に取り組む児童が増えてきた。しかし一方で、「自分の考えを他者に伝えること」「他者との交流で自分の考えを深めること」を苦手とする児童が多いことが課題として上がってきた。

本年度の研究では、視点として【「読み解く力」の育成に重点をおいた児童生徒が学びを実感できる授業づくり（滋賀県総合教育センター発行リーフレットより）】にあるように、①単元でつけた力を明確にすること（単元計画）、②「読み解く力」を高め、発揮している児童の姿を具体的に想定して授業を構想していくことの2つを重視していきたい。

①については、昨年度同様「出口を意識した単元づくり」を大切にして授業づくりを行うことで、児童がより主体的に学習に取り組めることを目指していく。本校では、単元の導入時にその単元でのゴールを提示することで意欲的に学習に取り組めるようにしてきたが、そのゴールは、「単元でつけた力」とも共通するものである。昨年度まで「ゴール」と定義していたものを「単元でつけた力」と言い換え、単元のねらいとなるもので、児童に学習の流れがわかりやすいものとなるように工夫していきたい。

②については、今年度、特に重視していきたい点である。昨年度の課題である「伝える」「深める」を解決するためには、具体的な児童の姿から学ぶという姿勢を大切にしていきたい。「児童の姿から学ぶ」方法として、自分の考えをうまく伝えられた、あるいは、自分の考えを深められた児童をピックアップし、その学びを引き出した教師の手立てや単元構成の工夫と関連づけて、協議を重ねていきたい。そうすることで、児童の学びを深める教師の働きが蓄積でき、より効果的な指導につながっていくものと期待している。また、「見取る」力の伸びは、教師一人ひとりの授業力の向上にもつながっていくだろうと考える。

◎研究の仮説

単元構成や教師の手立てによって学びを深めている児童の姿を明らかにすれば、教師の力量を高めることにつながるだろう。

(3) 研究の内容と方法

①「単元を貫く言語活動」「ユニバーサルデザイン(UD)を意識した授業づくり」を生かす

「研究主題の理由」にも述べたように、本校では上記の2点について研究を深めてきた。過去の学びを今後につなげていくことが大切であり、本研究においてもこの視点を重要視する。

「出口を意識した単元づくり」を念頭に、指導案においては単元計画を明記する。本年度も、組織をあげて、国語の力、とりわけ本年も目標とする「つながりある学習」を大事にし、国語科の学習が楽しいと思えるような児童を育てることを目指す。研究では、児童の学ぶ姿を見取り、単元計画やUDが効果的に位置づけられているかを検証する。(研究の継続)

②児童の成長から、日々の教師の指導・手立てについて考える(本研究の視点)

本研究では、1学期と2学期の2回授業を公開し(内1回は全体授業研究会)、年間の児童の成長について協議を行う。そして、児童の学ぶ姿や成長から有効な教師の手立てや学習方法を明らかにしていく。研究授業以外の学習や他教科で意図的に仕組んだことが、児童の成長にどのように結びついたか年間を通して考察する。(横のカリキュラム)

③縦と横のカリキュラム構造を考える(学びの系統性)

「話す・聞く」「書く」「読む」の3観点から主として研究を重ねる内容を選択し、実践を行う。授業は、1学期と2学期の2回公開する(横のカリキュラム)。ただし、同じ観点の単元で授業を行う。理想を言うと、部会で同じ内容を研究できるとよい。(縦のカリキュラム)

4 研究の方法

一人2回授業を公開する。1回は全体での公開とし、もう1回は参観できる者のみ参加の公開(自主公開)とする。1学期に1回、2学期に1回研究授業を行う。1学期に公開した教師は、2学期には研究協議会で出た課題を受けての実践報告を行う。2学期に公開する教師は、先に実践した内容を受けて深めた研究や日々の実践を重ねた実践報告を行うものとする。研究紀要では、2回の研究の成果と課題、日々の実践による学びの深まりをまとめる。(共有化)

また、「単元構想にある手立てによって児童がどう学べたのか」(指導者目線)を検証するのではなく、「児童の学ぶ姿や変容から、児童の学びを深めた教師の手立ては何だったのか」(児童目線)を検証することで、児童が「どのように学んでいるのか」を考える。児童の学ぶ姿・成長を中心に、授業改善を進める。

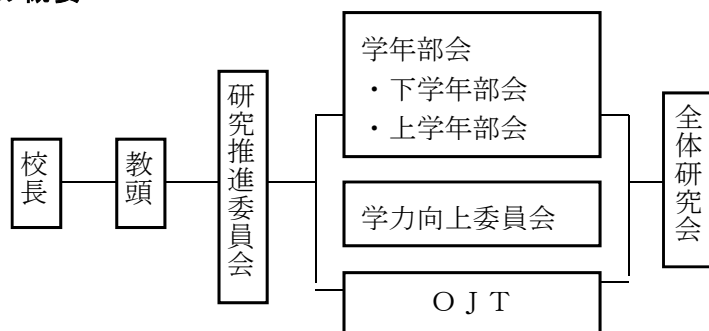
(4) 研究・研修計画

月	校内研究	職員研修
4	研究の見通しと研究主題決定	・各種全体計画の検討と研修 ・危機管理研修(食物アレルギー・嘔吐) ・危機管理研修(個人情報に関する取り扱い)
5	具体的な実践計画・授業研究会(特支)	・危機管理研修(危機管理マニュアル)
6	授業研究会(3年・5年)	・危機管理研修(セクハラ)
7	授業研究会(6年)	・情報教育研修
8	校内研究会 2学期に向けての教材研究	・教育相談研修 ・危機管理研修(体罰)
9		・キャリア教育研修・危機管理研修(セクハラ)
10	学力向上の取り組みについて 授業研究会(1年)	・人権教育研修
11	授業研究会(2年・4年)	・書写指導研修 ・図工指導研修
12	授業研究会(予備)	・危機管理研修(法令遵守・交通事故)
1	研究のまとめ	・健康(体・命)に関する指導研修
2	研究の総括 研究紀要作成	・学校評価と次年度構想 ・教科等の年間指導計画の検討
3	次年度の方向づけ 学力向上の取り組みについて(ふり返り)	・研修の反省 ・危機管理研修(セクハラ)

※自主公開研究の日には、自分の研究領域を考え、早めに日にちを決め研究主任に報告する。

授業予定カレンダーを作り渡す。OJT研修に関わって授業づくりの研修を行う予定。

(5) 校内研究体制の概要



※職員研修においては、校長・教頭の指導のもと、各主任が中心となり計画・実施する。

研究会の持ち方

①事前研

- ・研究部で必ず2週間前までに持つ。(構想) 可能な限り、管理職も1名入る。
- ・1週間前に指導案検討会をもつ。可能な限り管理職も1名入る。

※指導案は全職員に配布する。

②研究授業

- ・各部で ○授業者 ○記録者(カメラ・動画) ○司会 ○研究会のまとめを決める。
まとめは「校内研究だより」として全職員に配布する。
- ・参観者は、児童の様子を観察し、つぶやきや学び方を記録する。
つぶやきや表情の変化「分かった」という瞬間を導いた教師の手立てが分かる記録。
- ・授業記録は動画で行う(定点撮影でOK)。 ※必要に応じて、見直せるように。

③事後研

- ・研究協議は少人数で行う。後に全体で共有を図る。
- ・児童の学ぶ姿から見えてきた教師の有効な手立てを検証していく。
- ・協議内容をまとめたものを配布し学びの共有化を図る。
まとめたものは、各部の担当で作成する。

(6) 過去5か年間の研究主題

- ① 平成27年度 「楽しい、わかる、できる算数科をめざして」
～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の創造～
- ② 平成28年度 「楽しい、わかる、できる算数科をめざして」
～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の創造～
- ③ 平成29年度 「どの子にもわかる・できる確かな学びを保障する算数科をめざして」
～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導の工夫～
- ④ 平成30年度 「一人ひとりが自分の考えを表現し、
周囲とつながりを深めるための国語科指導をめざして」
～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫～
- ⑤ 令和元年度 「一人ひとりが自分の考えを表現し、
周囲とつながりを深めるための国語科指導をめざして」
～単元を貫く言語活動を生かし、児童の主体性や表現力を
高める授業の創造～